

## 第1学年 学級活動(1)指導案

特別活動研究室

### 1 活動題「係の仕事を見直そう。」

議題「にこにこかかりをパワーアップしよう！」

### 2 活動題設定までの経過

- 本学級では、1学期に「自分たちでできる仕事みつけ」をし、一人一役で係活動を行ってきた。また、係活動に対する、関心が高く、1学期末のアンケートによると「係活動の楽しさや大切さがわかる」と96%の児童が答えている。しかし、黒板係、くばり係、などの当番的な活動がほとんどで、活動に創意工夫はみられず、活動が停滞している係も少なくない。また、基本的に一人一役であるため友達と協力して活動する姿はあまりみられない。また、2学期の始めに学級目標に対する見直しを行い、クラスみんながもっとなかよしでにこにこになるための議題を募集した。その中に、「毎日の生活をもっと楽しくしたい。」という意見が出された。その議題を具体化する内容として係があげられた。1年生は、係だけでなく、学校生活全般に関する経験がない。児童たちに「どんな係があればいい？」といっても、自分たちが毎日経験している当番的なものしか出てこない。自分たちが体験したり、経験したりしたものでなければ、自分の考えとして浮かんでこないと考えた。また、学級の児童は、先生から言われたことだけしかやってはいけないという意識が強い。そこで、まず、学校を探検し、上級生がどのようにして学級をよりよくしているのかを簡単に調査した。また、教師からも、係のアイデアをたくさん児童に与えた。この活動をとおして、児童にまずは、「係活動って楽しそうだな。自分たちもやってみたいな」という思いをもたせたい。そして、「①みんなで協力できるもの②似たような仕事は合わせる③日直の仕事にできるものは日直に任せる④クラスが楽しくなるような工夫ができるか」の4つの観点で、1学期の係を参考に2学期の係を決めた。その結果、14個の係が整理・統合され、9つの係（遊び、鍵しめ、整理、かざり、保健、ランチ、本、クイズ、メッセージ）に絞られた。最初は、係の仕事積極的にやっていたが、まだまだ当番的な仕事しかできない、仕事がなく活動が停滞している、仕事をする時間がない、協力して活動をできないなどの問題点が出てきた。係をもっとパワーアップしたいという意見が出てきた。そこで、計画委員会で話し合い、本活動題を取り上げることにした。そして、今後、「かかりかつどうをふり返ろう」の活動題につなげていく。そこで、係のパワーアップについての評価を行う。その際、創造的な活動を取り入れると、クラスがもっと楽しくなることを意識させたい。そして、3学期の係活動を当番的なものから、創造的なものに移行していきたい。

本議題で、友達の考えを取り入れながら自分たちの係をよりよくしていくことを通して、友達とともに活動する楽しさを味わい、学級集団の一員として自覚を1年生なりに高めるとともにみんなで学級目標を達成していくという態度を育てる上で、大変意義があると考えます。

- 本学級の児童は、おっとりとした子が多く、大変素直で優しい子が多い。自分のことだけでなく、友達の事を考えて行動することもでき、みんなで仲良く過ごしたいという願いを強く持っている。しかし、自分の気持ちをなかなか言葉にできない児童、自信がなく失敗をおそれている児童もいる。教師が指示をすれば、意欲的に取り組むことができるが、自分たちでアイデアを出し合って行動することを苦手とする児童も多い。また、個人で遊ぶことが多く、みんなで一緒に活動したりする経験は少ない。2学期になって、少しずつ学級みんなで遊ぶことを経験しており、みんなで遊ぶ楽しさを味わってきている。

### 3 学級経営、組織づくりとの関連

本学級では、年度当初にどんな学級にしたいかを一人一人が出し合いながら学級目標を話し合い、「みんな なかよし にこにこ ○くみ」に決定した。この目標達成のために、毎日の帰りの会で学級目標に対する自己評価を行い、日々学級目標を意識しながら様々な活動に取り組んでいる。1学期の活動としては、一人一役の係活動、学級会を開いての雨の日集会などを経験している。2学期には、クラスのマークを決めよう、にこにこ係を決めよう等で学級会を経験してきた。学級会の組織として

は、輪番制の司会グループの進行によって学級会を進めるようにした。計画委員会は、当番になった司会グループが兼任した。休み時間を中心に、教師が進行しながら議題案の処理、司会・記録の分担、学級会の準備など協力して活動することを経験してきた。児童は司会グループがまわってくることを本当に楽しみにしており、自分たちで学級のことを話し合うという意識を高め、主体的な活動に結びつくと考えている。

学級生活のなかで、学級目標に近づく行動をしたとき（みんながにこにこになれるとき、みんなで協力できたとき、頑張ったとき、だれかがいい行動をとったときなど）には、学級目標に「にこにこシール」をはって来た。このシールが今では、54個に増えてきた。児童は、このニコニコシールがたまっていくのを、本当に楽しみにしており、仲間意識が高まってきている。

本議題で、学級目標をみんなの意見を取り入れて、係をよりよくしていくことを通して、児童は、「係がパワーアップしたら、にこにこシールがもっと増えるかもしれないね」と意欲を高めている。

#### 4 本活動題とキャリア教育の「4つの能力」とのつながり

本活動題の「にこにこかかりをパワーアップしよう！」は、さまざまな友達の考えを取り入れながら自分たちの係をよりよくしていく活動である。本活動では、次のような児童の姿が期待できる。

##### (1) 将来設計能力とのつながり

- ①自分の仕事・役割がわかる児童
- ②自分の仕事・役割の大切さがわかる児童
- ③学級会や係活動の準備や片付けができる児童
- ④上級生を見て、自分の将来の姿を考える児童

##### (2) 情報活用能力とのつながり

- ①様々な仕事があることが分かる児童
- ②様々な仕事に興味・関心をもつことのできる児童
- ③係活動に取り組む児童
- ④係活動の大切さが分かる児童

##### (3) 人間関係形成能力とのつながり

- ①自分の考えをもつことのできる児童
- ②友達と助け合うことのできる児童
- ③自分の考えを友達に話すことのできる児童

##### (4) 意思決定能力とのつながり

- ①自分のやりたいことを決めることのできる児童
- ②決まったことに対して、活動しようとする児童

#### 5 指導にあたって

##### (1) 事前

まず、係内で話し合い、活動内容に対するアドバイスをもらうために、今までの活動内容、うまくいっていること、困っていることを一覧にする。その一覧表を掲示しておき、朝の会、帰りの会を通して、係からのアイデア募集をする。つぎに、他の児童は、友達の係のために、取材などを取り入れながら情報を収集する。そのアイデアを各係の掲示板に貼っていく。そして、係ごとにアイデア一覧表を見て、話し合いの観点ごとに分類のシールを貼る。このことで、話し合いの観点に沿って話し合うことができると考える。また、事前に個人ノートに考えを書かせることにより、しっかりと考えを持って話し合いに参加できるようにする。

この活動を通して、他者の多様な考えを理解し、協力・共同してものごとに取り組む能力、幅広く情報を収集・探索する能力を身につけさせたいと考えている。

##### (2) 事中

まず、友達に自分が友達のために、考えたアイデアを友達に直接伝えに行く。つぎに、集まった友達のアイデアの中から、自分たちの係で取り組みそうなことを話し合う。その際、話し

いの観点（グループのみんなで協力できる仕事か、クラスのみんながにこにこになる仕事か）に  
そって選択・決定できるようにしておく。

この活動を通して、他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニ  
ケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む能力を身につけさせたいと考えている。

### (3) 事後

アドバイスを取り入れながら、係内で話し合い、活動内容や仕事分担をはっきりさせる。つぎに、  
係内で話し合い、具体的な活動計画を立てる。それをもとに、創意工夫を生かしながら、友達と協  
力して活動する。

そして、朝の会、帰りの会などにがんばりカード、ありがとうポストなどを通して、随時、係  
の活動の評価をする。

この活動を通して、多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きな  
がら、自己の成長を果たしていく能力を身につけさせたいと考えている。

## 6 目標

- クラスを学級目標に近づけるために、係の見直しを話し合い、活動することができる。  
(関心・意欲・態度)
- 自分の考えを提案理由と結びつけながら、係を見直すための工夫を考えることができる。  
(思考・判断)
- 係を見直す工夫を、その理由とともに友達に分かりやすく伝えることができる。  
(技能・表現)
- 係を見直す方法がわかり、活動の楽しさや大切さが分かる。  
(知識・理解)

## 7 指導計画

### (1) 事前の活動

児童の活動	教師の指導と援助	日時
1 学級会の議題について計画委員 会で話し合う。	○ 今までの係活動を想起させる。	10月30日 昼休み
2 計画委員会で話し合いの柱を決め る。	○ 話し合いの柱を決定する。	10月31日 昼休み
3 係で話し合い、今までの活動内容 等を一覧にする。	○ 係の活動内容、こまっていること、み んなにアイデアをもらいたいことなどを まとめる。	11月2日 朝の会
4 朝の会・帰りの会でアイデア 募集を呼びかける。	○ 係ごとに時間をとり、児童の口からア イディアを募集させ、意欲を高めさせる。 ○ 提案理由、話し合いの観点に沿って、ア イディアを書かせるようにする。	11月6日 朝の会 帰りの会 随時
5 考えたアイデアを係の一覧表 に貼る。	○ アイディアが少ないグループには、再 度時間をとり、アイデア募集をさせる。	
6 係ごとに集まり、アイディア一 覧表を話し合いの観点ごとに分類す る。	○ 事前にアイデアを把握し、整理させ る。 ○ 観点ごとに色分けしたシールを貼らせ、 視覚的にもわかるようにする。	11月9日 朝の会

7 学級会ノートに自分の考えを書く。	○ アイディアに対し、個人の考えを持たせる。その際、理由も書かせるようにする。	11月10日 朝の会
8 計画委員会を開き、学級会の準備をする。	○ 司会グループと学級会の進め方を確認する。 ○ 十分に打ち合わせを行い、自信をもって取り組めるようにしておく。	11月14日 昼休み

(2) 本時の活動

本時 平成18年11月15日(水) 第4校時 第1学年教室において

①ねらい

- 係のパワーアップのための工夫を、提案理由やめあてに沿って話し合うことができる。  
(思考・判断)
- 自分の考えをはっきりさせ、友達のをとりいれながら、係のパワーアップの方法を決めることができる。  
(技能・表現)

② 活動計画

話し合いの順序	指導上の留意点
1 始めの言葉 2 司会者の紹介	○ 明るく大きな声で、あいさつや紹介ができるように伝えておく。
3 議題の確認と提案理由の説明 ○議題 ここにこかかりをパワーアップしよう	○ 提案理由の大切な部分を、板書でも強調しておく。 ○ みんなで大きな声で読み、大切な部分を確認する。
○提案理由 1の2が楽しくなるためのかかりをみんなの力でパワーアップすれば、もっとクラスががっきゅうもくひょうであるみんながなかよしにここにこ2くみにちかづくから	
4 話し合いのめあての確認 ○ ともだちにアイディアをもらいながら、それぞれのかかりのこまっていることをかいけつしよう。 ○ つぎのことをかんがえながら、かかりをパワーアップするないうきをきめよう。 ・ グループのみんなでちからを合わせることができるか。 ・ クラスのみんながここにこになるしごとか。	
5 先生の話	○ 提案理由、話し合いのめあてに沿った話し合いになるよう、もう一度強調しておく。
6 話し合い 話し合いの柱：パワーアップする内容をきめよう。	
(1) アイディアタイム (提案) 事前に張り出していた、係からの提案を確認する。	○ 話し合いの流れを、一人一人に確認させておく。 ○ 一覧表を見て、簡単に確認をさせる。

<p>係のパワーアップのアイデアを渡しに行く。</p> <p>(2) しつもんタイム (質問) 友達から提案されたアイデアに対する質問をする。</p> <p>(3) なるほどタイム (交流) 係ごとに集まり、友達の考えの中から取り入れる考えを話し合う。</p> <p>(4) まとめタイム (整理) 自分たちの係で取り入れる考えを決める。</p> <p>(5) にこにこタイム (決定) 自分たちの係で取り入れる考え、パワーアップする内容を発表する。</p>	<p>○ 事前に調べてきた係パワーアップのアイデアを友達に渡しに行く。</p> <p>○ 話合いの観点に沿って、選択決定するように伝える。</p> <p>○ 簡単な選んだ理由も考えさせておく。</p> <p>○ 途中で、提案理由の具体的な姿を確認し、観点に沿って話合いができるようにしておく。</p> <p>○ 話合いが行き詰まりそうになったら、児童が提案理由や話合いのめあてに立ち返るようにする。</p> <p>○ 時間が余りそうなグループには、簡単な具体物をつくるようにさせる。</p> <p>○ 友達に感謝の気持ちを表すように伝えておく。</p> <p>○ 選んだ理由を簡単に言えるようにする。</p> <p>○ 大きな声で、言うように伝えておく。</p> <p>○ 話合いの価値づけ、話合いで決まったことよき、司会者グループへの労い、係活動への意欲付けなどを行う。</p>
7 先生の話	
8 終わりの言葉	

(3) 事後の活動

児童の活動	教師の指導と支援	日時
1 係内で話合い、活動内容や仕事分担をはっきりさせる。	○ 全員が役割を分担し、協力して、仕事ができるようにする。	11月16日 17日 朝の会・帰りの会
2 係内で話合い、具体的な活動計画を立てる。	○ 優先順位をはっきりさせる。	11月20日 朝の会
3 創意工夫を生かしながら、友達と協力して活動する。	○ できるだけ、児童の手に任せるが、随時適切な助言や励ましの言葉かけを行う。	11月21日 随時
4 係の活動の評価をする。(がんばりカード、ありがとうポストなど)	○ 係のがんばりが学級目標の具体化につながったということについて、話合い、準備、活動のあらゆる場面に目をむけるようにする。	11月下旬 ～12月

8 評価

- クラスを学級目標に近づけるために、係の見直しを話合い、活動することができたか。  
(関心・意欲・態度)
- 自分の考えを提案理由と結びつけながら、係を見直すための工夫を考えたことができたか。  
(思考・判断)
- 係を見直す工夫を、その理由とともに友達に分かりやすく伝えることができたか。  
(技能・表現)
- 係を見直す方法がわかり、活動の楽しさや大切さが分かったか。  
(知識・理解)